

# 2017年12月号

## FP 武蔵野グループ



今村幸雄（CFP 認定者）

### 母親を老人ホームに入れて

今月のメルマガは、ファイナンシャルプランナーとしてではなく、高齢の親を持つ1個人として書いています。

私の母親は今年97歳になります。父が死んだあと妹夫婦と一緒に暮らしていました。元々は父の家であった土地に私と母がそれぞれ家を建て、母の家に妹夫婦が同居する形でこの25年近く暮らしてきました。母は病気になって最後の場所は病院だとしても、このまま自宅で最期を迎えることができるものと家族全員が思っていました。母も子供と自宅ですっと暮らせて幸せだと言っていました。

ところが、昨年妹がリュウマチを患い、片手が使えない状態になってしまいました。病気の進行と共にもう一方の手も不自由になっていき、日常のことがほとんどできない状態になりました。それまでは、週に何日かヘルパーに人に来てもらい、デイサービスに通うなどして自宅で暮らしてきましたが、この状態では妹が母の面倒を見るのは到底無理になりました。私の家もまだ子供がいるなどスペース的に母の居場所はなく、仕方がないのでどこか老人ホームを探すことにしました。母は老人ホームに入ることを嫌がっていましたが、物理的事情であきらめざるを得ないことも分かっていました。

老人ホームを探すことについて、幸い義理の弟が老人ホーム紹介業者を知っているということで、その業者に紹介してもらうことにしました。何件か紹介を受け訪問しましたが、はっきり言ってどこが良いということはよくわかりませんでした。仕方なく、家からそれほど遠くなく値段的にも折り合えるホームに決めましたが、正解だったかは今もわかりません。こういう時、前もって知識を仕込んでおくのと役に立っただろうと思います。また、本当に世間的にも認められた信頼できる仲介業者の人を知っていればどんなに良かったかとも思います。

私はFPなので一寸だけお金のことをいえば、日本FP協会では、老後夫婦2人で暮らしていくには、通常毎月27万円、ゆとりある生活をするのであれば毎月36万円程度は必要だと言っています。多くのFPもこの金額で老後の生活費を計算して安心ですと言っています。でも、今母が入っている老人ホームは1人で毎月36万円程度かかります。私のところは、父の遺族年金が20万円弱あるので、月に15万円、年間に直せば180万円、預金を取り崩していけばよい計算になりますが、夫婦2人ではなく1人でこの値段がかかるのです。FP協会の言う夫婦2人の金額は自宅があって、2人とも元気なうちはこの金額で済むかもしれませんが、民間の老人ホームに入ったら、夫婦2人ならこの倍は覚悟しなければなりません。今後高齢者はどんどん増えていき、特養など値段が安い施設はますます入りにくい状況になってきます。日本政府も人づくり革命に取り組んでいるように、人生100年時代を考えなければなりません。その時、自宅で100歳の夫を97歳の妻が、あるいはその逆としても、何年にもわたって面倒を見るなんて無理な話です。幸い子供と同居していたとしても子供も70歳になっています。そうであれば、今までFPが作っていたライフプランは85歳以降から見直さなければならなくなると思います。アンケートによれば、6割の日本人が「終の居場所」は自宅が良いと答えているそうですが、長寿社会ではこの選択肢は非常に難しいものになってきます。老後に備えて、前もって資金の準備しておくことがますます重要になってきます。

今年の3月から母を老人ホームに入れていますが、母から毎日のように家に帰りたいと電話が私や妹のところにかかってくる。更に老人ホームはやることがないので退屈で我慢できないとかこのままでは惚けてしまいそう等の愚痴を言われます。どんな対処をするべきなのかそこもよく分かりません。入っている老人ホームの介護士の方に聞いても答えにくいのかはつきりしません。

私の母は、年も年なのでそう長くはないと思いますが、自分たち夫婦のことを考えると、今のうちに老人ホームや介護施設の知識を身に付けて準備することがいかに重要かと考えるようになりました。この場合、準備とはお金のことだけではありません。覚悟とか生き方など長寿社会に対応できるように準備することが必至となります。今は母がそんな中でも、幸せな人生だったと死ぬ時言えるような環境を作ることができればと願っています。

また、こういった問題に的確に対応できることが、今後のFPには求められるものだと思います。(自分でやるだけでなく的確な人や施設を紹介出来る能力)、

以上